

中国語を母語とする日本語学習者の語りの談話における表現と構造 —日本語母語話者との比較を通して—

烏 日哲

【要旨】

1 研究目的

本研究は、中国語を母語とする日本語学習者（以下日本語学習者）と日本語母語話者の語りが異なるのは、話者の言語運用における心的態度の問題が深く関わっているのではないかという疑問を出発点としている。特に、ある程度熟達度が高い上級日本語学習者において、その発話に文法的な誤りがない場合でも、日本語母語話者とはどこか異なるという「違和感」を伴うことがある。

こうした「違和感」の背景には、話者が情報をどのようにとらえ、どう表現しているのかといった内面的な心的態度が深く関わっており、また、同じ場面や事柄をどのように描写し、その話自体をどのように構築しているのかについては、社会、文化的な背景の影響があることが、予備調査により明らかになった。

そこで、本研究では、中国語を母語とする上級日本語学習者に字のない絵本を見せ、その内容を日本語母語話者相手に話してもらい、その言語表現について分析を行った。また、その背景にあるものとして言語間の傾向的差異があるかどうかを探るため、日本語と中国語の母語話者にそれぞれ母語で話してもらい、日本語と中国語のデータを収集した。

2 研究の資料と方法

2.1 調査材料

調査に用いた絵本『アンジェール ある犬の物語』は、ベルギーの作家ガブリエル・パンサンの鉛筆デッサンによるものである。ある日、犬は飼い主に捨てられるが、飼い主を探しつづけ、最後にある少年と出会うという犬の一日が描いたものである。作品は全部で54枚の絵からなっており、文字による説明は行われていない。

具体的には次のような場面で構成されている。まず一匹の犬が飼い主と思われる何者かによって車の中から捨てられてしまう。捨てられた犬は道で飼い主を待ち続けるが、飼い主の姿は見えない。犬は飼い主を求めてさまよい始める。犬は道を渡ろうとして突然飛び出したため、それを避けようとした車と対向車線の車が衝突し、交通事故になってしまう。そして、犬は事故現場から離れ、野原や海辺のようなところでさまよい続ける。やがて町らしきにぎやかなところに着き、最後にある少年と出会うのである。

2.2 調査対象

本研究では、大学学部 に在学する日本語学習者 20 名と日本語母語話者 20 名、中国語母

話者 20 名に調査を依頼した。日本語学習者は、日本語のレベルを揃えるために、中国の大学で日本語を専攻している、日本語能力試験 1 級に合格した者に限定した。

2.3 調査の手続き

まず、調査協力者である話し手に絵本を 20 分程度読んでもらった。読み終わったら、その内容を聞き手に伝えるよう指示し、聞き手はまだ絵本を読んでいないことを伝えた。調査は話し手と聞き手が机を挟んで対面に位置し、1 対 1 で行なった。その全過程を調査者が 2 台のビデオカメラで録画した。調査時間は 1 人当たり約 30 分である。

2.4 分析方法

分析の視点は、

- ① 中国語を母語とする上級日本語学習者が語りの談話を行なう際に、具体的にどんな表現を用いて語っているのかという表現的特徴、
- ② 談話の最初に何を導入し、どう展開させ、最後にどう終結させているのかといった談話の構造という二つによる。

具体的には、表現の特徴を探るために、絵本の再現度、語彙の使用などの観点から分析し、構造上の特徴を探るために、談話の開始部、終結部の特徴、接続表現の使用をそれぞれ考察した。更に、日本語母語話者と中国語母語話者の母語による語りの談話を併せて分析し、日本語学習者の語りの談話の特徴の基盤となっている母語の影響を可視化し、中国語を母語とする日本語学習者の語りの特徴が形成された要因について突き止めることを目指した。

3 本論の概要

本研究の本論は 3 部に分けられている。

まず第 2 部では、日本語学習者と日本語母語話者の語りの全体像を把握するため、第 4 章において「絵本との一致度」を焦点に当て、日本語学習者と日本の母語話者の違いを考察した。

その結果、絵本の語りにおいて、日本語母語話者は、絵本に描かれている内容を忠実に再現する描写を好み、心理描写をする場合でも外面からわかる描写に留めるのに対し、中国語を母語とする上級日本語学習者は、絵本に描かれた内容を脚色して大胆な内面描写を行ったり、絵本に描かれていない説明を語りの冒頭部と結末部に加えたりする傾向があることがわかった。

また、中国語を母語とする上級日本語学習者が脚色や説明を加える背景には、母語の干渉による側面と、学習者としてのストラテジーによる側面、その両面が影響していることが明らかになった。

そこで、日本語学習者のこうした語りの特徴の背景にある要因を明らかにするため、第3部と第4部では、表現上と構造上における個々の特徴をより細かく分析したうえで、中国語母語話者のデータも加え、日本語学習者の語りの特徴とそれが形成された要因について全面的に分析した。

第3部第5章では日本語母語話者との比較から日本語学習者の実質語の使用について考察した。主に名詞的表現を中心に分析したが、その結果、

- ① 日本語学習者は場所を表す名詞を用いて、ストーリーの内容を表すときにそれがどこで起きた出来事なのかを説明する傾向が強く、
- ② 語りを進めるにあたって、登場人物（犬）に名前をつける

傾向が見られた。更に、母語の影響があるかどうかを、中国語母語話者の語りと照合することによって検証した結果、上級或いは超上級と見られる日本語学習者であっても母語である中国語の影響を受けたものとして考えられる「車の中」「主人」「恋人」など語句の使用が見られた。

第4部第6章では、日本語学習者の語りの構造を明らかにするため、まず、日本語母語話者の語りと比較し、日本語母語話者との違いを探った。また、中国語母語話者の語り进行分析することによって、日本語学習者の語りの構造を形成している心的要因についても探った。

開始部において日本語母語話者と中国語母語話者は、絵本の出来事以外の情報を加えずにそのまま語るのに対し、日本語学習者の語りは絵本の出来事以外の多様な情報を盛り込む傾向があることがわかった。出来事以外に、その出来事が起きる原因や理由、場面設定のような背景を語る傾向がある。また、絵本を見てからその内容を知らない聞き手に伝えるときに自分の感想やコメントをまず提示し、自分からみたストーリーの性格を聞き手に示そうとした特徴も見られた。

また、終結部においても、日本語母語話者と中国語母語話者が絵本の結末を絵本通りに伝えるのに対して、日本語学習者の語りは絵本のストーリーに対する感想や内容に対する評価的なコメントなどを加えて話を終結させていることがわかった。

日本語母語話者と中国語母語話者の語りの開始部と終結部における特徴が一致し、中国語学習者が異なったという結果から見れば、日本語学習者の語りの開始部と終結部の特徴を形成した要因は、日本語学習者が自身の伝達能力に自信がなければいほど、たくさんの情報を提示して、その伝達能力の不足を補おうとする日本語学習者ならではのストラテジーにあるのではないかと考えられた。

検証の結果、日本語学習者の独特な語りの構造は、母語或いは母文化の影響が希薄であると結論づけた。

更に、第 7 章では、語りの構造における展開の仕方を考察するため、語りの文頭に出現した接続表現をどのように展開しているかという点に注目して、順接、逆接、場面展開、説明と大きく 4 つに分けて分析してみた。

その結果、日本語学習者には、i 逆接が多い、ii 「突然、急に」などの副詞に接続の機能を与えている、iii 継起的な接続表現がなく、一つ一つの場面が独立している、iv ストーリーの展開に起伏が感じられるなどの傾向が見られた。

更に、中国語母語話者の語りを分析し、母語の影響があるかどうか検証した結果、日本語学習者には、中国語母語話者の語りにも共通する特徴として、「でも」「しかし」のような逆接が多く、「突然～」などの表現を用いて、場面一つ一つが独立しているという傾向が見られた。これは母語の影響であると考えられる。

一方、日本語の「で、そして」に当たる「然后、完后、完了以后、完了、后来」を用いて順接で場면을展開していく例も数多く見られ、日本語学習者ではなく、日本語母語話者に近い傾向も見られた。

4 まとめ

総じて言えば、本研究の分析対象である「語り」というある程度長さがある独話に近い談話においては、日本語母語話者が淡々と事実だけを述べたり、順接を中心に平坦に話を進めるのに対し、日本語学習者は語りの中に事実以外の自分の感想や評価を盛り込んだり、逆接を多用し、話にメリハリをつけようとする傾向が見られた。

また、日本語学習者の名詞表現を中心とした具体的な表現においては、母語である中国語の影響が観察されたが、談話の構造においては中国語母語話者の語りの構造とは異なる点が見られたことから母語の影響が薄いことが分かった。中国語母語話者の語りの構造は日本語学習者よりむしろ日本語母語話者に類似しているといえよう。日本語学習者の語りの談話の特徴を明らかにするには、ほかの言語を母語とする日本語学習者のデータも取り入れた更なる分析が必要であると思われる。